
考えることは乗り越えることである

—— 幸村富士彦遺稿・追悼集

目次

はじめに

栗原貞子

「亡き人と共に生きよう」

13

第1部 道しるべとなった人びと 15

好村富士彦

『原爆詩集』の成立に立ち会う 19

佐々木基一さんのプロフィール 22

プロット『希望の原理』の完訳刊行に寄せて 38

アウシュヴィッツ・ヒロシマ以後 42

『ベンヤミン著作集』の翻訳完結に寄せて 51

橋川兄弟を偲んで 55

追悼 野村修氏 57

第2部 中高・療養時代 61

好村滋洋 兄、富士彦と育った思い出 63

久保岡哲彦 彦やん——好村富士彦さんの思い出 70

渡辺晋 好村君、また会いましょう 75

幾田篤 好村富士彦君の思い出 77

御庄博実 朝鮮戦争下で、青年詩人好村富士彦氏を知る 81

好村俊子 兄を偲んで——峠三吉の詩を朗読する 86

福島正純 好村さんの思い出 96

好村俊子 今は亡き富士彦兄ちゃんへ 98

第3部 早大時代

好村富士彦 — クラス・ノートに一番手として 157

野口武彦 風薫る五月 159

山田和明 六〇年安保、非暴力、好村さん 160

三木實 若かったあの季節の私たち 165

岡田浩平 好村さんの学生時代 169

小峰(千葉)紀雄 いつまでも若い好村さん 180

下重光正 好村さんありがとう 182

好村富士彦 — 美しき惑いの年 — 独文始末記 187

好村富士彦 幸・ランメル 兄、好村富士彦を偲ぶ 100

海本 丈夫 ヒコちゃんを送る従兄弟の心 102

原爆文学はかけがえのないメッセージ — ヒロシマ・ナガサキの文学 104

峠三吉との出会い 109

反核の詩人峠三吉 — 没後三〇年に思う 111

好村富士彦 死者はいつまでも若い 114

朝倉勇 峠三吉をめぐるっての好村富士彦と僕 — その青春と晩年 118

疎遠なシステムと化したわがふるさと東京 146

社会科学への目開く 147

好村玲子 好村との出会いから 149

好村富士彦

- 松代洋一 好村さんのこと 192
 荒武俊子 柳に雪折れなし——好村夫妻 194
 鈴木泰子 うれしい再会 195
 巳之口武 心やさしき畏友 196
 中島敦論 200
 中島敦とカフカ 235
 トーマス・マンと初期の作品——『トリスタン』を中心に 242
 ハウゼ楽団のこと 246

好村富士彦

- 川田喜信 「風の会」の頃 250
 網本喜美 想い出すこと 254
 父親となって 256
 安保後の風潮について 257
 船戸満之 好村さんとプロッホ 261
 竹下史郎 申し訳ありません 263

第4部 日大時代

265

- 和田正信 好村さんとの「人間的信頼関係」 267
 佐々木稔 風の中の旅人 269
 三橋俊明 好村富士彦と無尽出版会 271
 好村富士彦——不可視の渦の原点へ——日大闘争総括のための一視座 276

第5部 京大時代

315

エドゥアルト・フックス——無名の大衆芸術への愛着
フックス『エロティック美術の巨匠たち』について 308
312

小寺昭次郎

好村さんを思う

317

徳永 恂

「匙」の頃——ユートピアはあったか

319

小岸 昭

好村さんの風景

324

池田 浩士

オルガナイザーと転向

326

好村富士彦

ユートピアは確かにあった

333

最新エッセイ事情——行方不明になった「冒険の精神」

340

ヴィリ・ミュンツェンベルク——ある革命的ジャーナリストの生と死

349

片岡 卓三

京大時代の好村先生

370

栗原 幸夫

三賢人の「星座」にかこまれて

372

佐佐木 朋子

好村先生との出会い

374

河田 育子

本当の思想を持っていた人——好村富士彦先生の思い出

376

好村富士彦

花田清輝——作家案内

380

宮内 豊

淡々として水の如くに

388

第6部 広島時代

391

針生一郎

文化運動思想家の横顔

393

伊藤成彦

好村さんの近代Ⅱ原爆文明への危機意識

396

原時彦

交友抄

398

好村富士彦一 原民喜を語る

400

文沢 隆一

かれとヒロシマとのかかわり

401

小久保 均

内なる友の死

405

好村富士彦一 「被爆の原点・広島からの呼びかけ」の会について

408

古浦千穂子

好村先生の思い出

418

伊藤真理子

好村富士彦さんのもうひとつの仕事

420

池田正彦

「文学資料保全の会」のことなど

423

柴田幸子

好村先生を偲んで

425

好村富士彦一 詩集『銀杏の木への巡礼』が生まれるまで

429

森下弘

優しい眼差し

432

石嵯英子

好村先生との出会い

433

森安二三子

その目配りの優しさ

434

武谷田鶴子

好村先生は美男子だった

436

沼田鈴子

好村富士彦先生を偲んで

438

寺島洋一

好村富士彦さんと詩集『難民』の望月久

439

藤本仁

好村さんを悼む

441

山田夏樹

意志の人・行動の人

442

第7部 廣大・東亜大時代

469

好村富士彦

『行李の中から出てきた原爆の詩』の刊行にいたるまで

457

ホーマン君のこと

466

杉原助

座り込みをともしして

444

横原由紀夫

世界観を広げてくれた人

446

木原省治

肩から感じた温もり

448

小畑弘道

「つぶあんのおい」のこと

449

高原泰五

療友 好村富士彦君の思い出

451

高藤茂

間接的な事柄が縁となった

453

好村富士彦

文学に見る平和の諸相

485

ブレヒトの仕事と思想より——危機的状況における文学

495

金森誠也

好村さんの思い出

509

岡本三天

非凡な人間の非凡な生活スタイル

511

西村雅樹

好村先生を偲んで

513

島谷謙

好村先生の思い出

515

好村富士彦

成定薫	ブレヒト『ガリレイの生涯』を介して	516
戸田吉信	遅きに失したが……	517
及川道比古	希望は裏切られることがある——『プロッホの生涯』を担当して	520
原千史	チュービンゲンでの好村先生	525
安井榮一	好村先生と私の「奇妙な」関係	526
窪俊一	しなやかな枯れ木	530
古川千家	「笑い猫」	532
増本浩子	傍流の弟子	533
大野寿子	執念のドイツ語習得術——その影に隠されたあの一言	537
船木篤也	「貴君の翻訳を楽しみにしています」	542
小田智敏	好村先生と音楽	544
ベラ・バルトークのこと		549
わがストレイ・シップたち		550
山本泰生	「直」の人	553
中川浩史郎	好村さんとの思い出に寄せて	554
浜村篤	教育者 好村富士彦	558
清水洋子	好村富士彦先生の思い出	559
竹本勝久	記憶と記録に残すこと	561
金田晋	好村富士彦さんへの思い出つれづれ	563
米田綱路	好村富士彦氏と「いまだ・ない」の哲学	566

好村富士彦

総合雑誌批評
回顧と反省

574

594

あとがき

岡田浩平

610

好村富士彦 年譜 600

好村富士彦 原稿初出一覧 603

好村富士彦 主要著・訳書一覽 606

追悼文 寄稿者一覽 608

